目標をしぼった学習の手引きの工夫

――中学生の説明的な文章指導を通して――

水登伸子

一、はじめに

教師になったばかりの頃、数学の先生に言われた言葉がある。「説明的な文章の授業というのは、それを受ければ、読み方が身について、他の説明的な文章も読めるようになる…ということですよね？数学だったら、解き方を身につければ、それを応用すれば、必ず他の問題も解ける。それと同じように。そうでなくては意味がないですよね。」

ひとつひとつの教材には、各学年の指導すべき事項に対応したねらいがある。指導目標を明確にし、発達段階に応じて、それを達成していけば、三年間で現実の認識のしかたを身につけ、論理的思考力を高めることができるのではないだろうか。欲張りすぎると、生徒の頭には文章の内容だけしか残らないのではないだろうか。

そこで、「今回は、この力が身についた」と、生徒がはっきり認識できるような学習の手引きを工夫して、目標をしぼった指導の工夫を試みた。

二、授業構想の視点

以上のことから、授業構想の視点を次のように設定した。

> 1、学習指導要領の「読むこと」の指導事項を参考に、目標をしぼった手引きを使って学習することで、生徒は、説明的な文章を読み「認識のしかた」を身につけることができるのではないか。
>
> 2、「認識のしかた」を身につけることによって、生徒自身の論理的な思考力を伸ばすことができるのではないか。

三、授業の実際

ここでは、『国語1～3』（光村図書）のそれぞれの学年から一教材ずつ、学習の手引きの工夫について取り上げることにする。

1　第一学年「未来をひらく微生物」大島泰郎

（1）教材の特徴

この教材は第五単元に位置しており、生徒は既に、問題提起とその答えによって論理が構成されているという説明的な文章の基本的な特徴を学んでいる。しかし、最初の説明文教材が平易な言葉を用いた短い文章で、内容的にも生徒の興味を引くものであったのに対し、これは、文章量からも、内容の専門性（語句の難易度）からも、ぐっとハードルが高くなっている印象を受ける。

（2）指導の目標

①　文章の内容や語彙について興味を持ち、疑問を解決したり知識を広げようとする態度をもたせる。
②　文章の内容をとらえ、要約させる。
③　段落の役割や文と文との接続関係などを考えることによって、文章の構成や展開について理解させる。

このうち、②については、既に学習済みなので、①と③の目標を達成するために、「サブノート」という形の手引きを作った。

（3）指導過程

第1次　語句や内容についての疑問や感想を書き留めながら、全体を読ませる。
第2次　疑問を持ったことについて、書籍やインターネットを使って調べ、分担してわかりやすくまとめさせる。
第3次　調べた資料を補助的に使いながら読み、各段落の内容をつかませ、要約させる。
第4次　段落どうしの接続のし方から文章の構成を読み取らせる。

第1次は、「段落ごとにコメントを書く」という学習活動を行った。この方法は、専門性が高く、難しい語句が多用してある文章を読む時に限って使う。一段落ずつ教師が音読し、それについて疑問や自分の持っている知識、感想などを一行ずつ書きながら次に進むという方法である。次の例は第三段落についてのものである。

【本文】このように、微生物が物質を分解し、ほかの物質に変えて放出する現象を、発酵とよぶ。パンやしょうゆ、納豆、かつお節など、多くの食品が発酵を利用して作られている。エジプトにある三千五百年前の壁画には、イースト菌を使ってパンとビールを作る人の姿が描かれており、人類が昔から発酵という微生物の働きを生活に利用していたことがわかる。

←これについて

【生徒の書いた文】
・発酵って、腐ることじゃないの？
・発酵って、微生物がやってたの？
・納豆は大豆を発酵させたものだったの？

・昔の人は、本当に発酵のことを知っていたのか？
・イースト3g、強力粉250g、水1カップ、塩5g、砂糖14g、バター20gでパンができる。
・ビールにイースト菌が入ってるの？
・パンの中のどんな物質が、何の物質に変わっているんだろう？
・かつお節のどこに発酵しているところが？
・お酢も発酵されているみたいです。
・しょうゆはヤマミズしょうゆがおいしいよ。

単純な語彙についての疑問は辞書で調べるという方法をとるが、内容に関わるものについては、生徒の書いている疑問から二十の事項をピックアップし、（本校は少人数指導のため、二十人で授業を行っている。）一人一つの割り当てで、第2次の調べ学習を行った。

第3次では、それぞれが書いた記事（あらかじめ教師が人数分印刷しておく。）をサブノートの台紙に貼り付ける。台紙には段落番号、「段落どうしのつながりキーワード」、その段落の本文、要旨を書き込むスペース、第1次で書かれた疑問、を印刷しておき、それぞれの段落を詳しく読むときに、調べた記事がすぐそばにあるように（その都度、調べた生徒が解説する。）貼り付けるためのスペースも確保しておく。（資料1）

ただし、段落の内容要約については、あくまでも「できて当然」というスタンスを強調するため、敢えて一人一段落で分担をした。生徒は、自分の担当段落について、細長く切った模造紙にマジックで大きく要旨を書き、黒板にマグネットで掲示する。他の生徒は、黒板に掲示された十八枚の模造紙の内容をチェックし、不適切と思う段落については、全員で考えながら訂正していく。最終的にこれで良しということになったら、自分のサブノートの要旨を書き込むスペースに写す。

第4次では、指導目標③にかかわる活動を行う。まず、各段落の台紙に、接続詞やナンバリングのための言葉など「段落どうしのつながりキーワード」を書き込み、それを基にして、サブノートの最後のページに構成を図示する。ここでは、第3次で使った、要旨を書き込んだ模造紙を再び黒板に掲示し、その上に、「つながりキーワード」を書き込んで一覧にして考える。

そして最後に、人間の立場からではなく、微生物の立場から説明する文章に書き直すという学習活動を行った。これにより、内容と文章の構成をつかんでいるかどうかを確かめることができる。

2　第二学年「モアイは語る――地球の未来」安田喜憲

（1）教材の特徴

この教材は、第一学年の「未来をひらく微生物」に続いて、環境や生命についての筆者の考えを理解し、地球環境保護の大切さに気づかせる内容になっている。題材も、イースター島、モアイなど、中学生の興味を引くものである。

筆者が述べたいのは、森林資源を保護することの大切さや、イースター島に起きた悲劇が、今後の地球の未来を暗示しているということで、小学校の教科書でも扱われているような内容だが、この文

章の特徴は、筆者が解明した事実を根拠に述べている点であり、根拠が明らかであれば、説得力が高まることを理解させられる教材である。

（2）指導の目標

① 文章のまとまりごとの構成に着目しながら読ませ、段落の役割や論理の展開のしかたをとらえさせる。
② 文章中に示された事実や根拠を的確に読み取らせ、筆者の意見を理解させる。

この教材を読む上でのキーワードは「根拠」と「説得力」であることを常に意識させて、②の目標を達成するように工夫した。

（3）指導過程

第1次　文章の構成や、論理の展開のしかたをとらえるために、各段落の要旨をまとめさせる。
第2次　文章の大きなまとまりをとらえ、それぞれに小見出しをつけたり、内容を要約したりして、論理の展開のしかたをとらえさせる。
第3次　筆者が推定したことや、結論づけたことと、その根拠を表に整理し、論の説得力を高めるためには、根拠が明確であることが必要だということを理解させる。

第1次・第2次の「要旨をまとめる」「論理の展開のしかたをとらえる」は、今まで何度も行ってきた学習活動であり、各段落の要旨をプリントに短くまとめた後、分担を決めて模造紙に写し、黒板に掲示して、全体を見ながら構成を考えるという方法にした。

第3次は、筆者が推定したこと、結論づけたことをぬき出し、それぞれの根拠として提示されているのはどのようなことかを表に整理させた。その後、その根拠が強いものなのか、弱いものなのかを検討し、この文章の不充分なところを探して、どのような根拠があれば、説得力が高まるのかを考えさせた。（資料2）

3　第三学年「メディア社会を生きる」水越　伸

（1）教材の特徴

この教材は、「社会をとらえる」という単元の教材で、その次の「新聞の特徴を生かして書こう」という教材とともに、社会や情報について理解を深め、問題意識をもたせることがねらいとなっている。この教材も含め、第三学年で取り上げられている説明的な文章は、学習指導要領「読むこと」の指導事項エに大きく比重が置かれている。

文章中にそれほど難しい語句は使われていないが、「メディア」という言葉の定義を理解していないと、途中で混乱するおそれがある。また、メディア社会の発達の歴史に言及している部分について、現代の中学生の認識と、一九六三年生まれの筆者との間には溝があり、説明不足の部分を少し補う必要があると思われる。

（2）指導の目標

① 取り上げられているテーマについて問題意識をもたせる。
② 文章を読んで、人間、社会などについて考え、自分の意見をもたせる。
③ 内容の理解や、自分の表現に役立てるために、書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえさせる。

文章の内容を読み取っていく過程で、①・②を常に意識させる。③については、読みの過程でそれができていたかどうかを最後に整理させる。

（3）指導過程

第1次　語句や内容についての疑問や感想を書き留めながら、全体を読ませる。
第2次　疑問や感想をもとに、全体で内容の理解を深めさせ、さらに自分の考えをふくらませる。
第3次　段落どうしの接続のし方から、文章の構成を読み取らせる。
第4次　メディア社会の生き方について、座談会形式でお互いの意見を話し合う。

第1次では、一年生でも取り上げた「段落ごとにコメントを書く」という学習活動を行った。一年生では、疑問を書く生徒が多かったが、三年生ともなると、さまざまな反応を書く。例えば、十五段落については、次のようになっている。

【本文】大切なことは、メディアを読むことと書くこと、つまりメディアを受けることと送ることは、互いにばらばらではなくて、深く結び付いているということを認識することだ。長い間わたしたちはメディアの一方的な受け手でしかなかった。しかし、新たなメディア社会の中で、わたしたちもまたメディアの送り手、表現者になれる。文章を書く経験がより豊かな読解につながるように、そしてより深い文章の読みがよりよい表現を生み出すように、メディアを読むことと書くことは環をなしている。日本各地の学校や公民館、図書館、博物館では今、メディアの読み書きを学ぶための授業や講習会が開かれているが、そうした動きはまだ始まったばかりだ。

←これについて

【生徒の書いた文】
① 例えば学校の調べ学習。最近は広大のことを調べた。
② 自分は講習を受けるより独学の方が分かりやすいと思う。
③ どんどん広まってほしいね。けど、問題点も出てくるでしょ。
④ 今はどれくらい発展したのかな？
⑤ 「文章を自分で書く」ということが、「読む時、書き手の気持ちが分かる」とつながっているのはすごい。

①の生徒は、文章の内容を自分の体験と重ね合わせたり比べたりして読むことができている。③の生徒は、メディアの送り手が増えているということから、問題点が出てくるということを予想している。本文ではそのことに二十段落でふれられているが、問題意識を持って読み進めると、さらに理解が深まると思われる。④の生徒は、この文章が書かれた時点から、さらにメディア社会が進化しているということを踏まえた感想である。⑤の生徒は、「文章を書く経験がより豊かな読解につながる」という筆者の文章を、自分なりの解釈でくだいた上での感想であり、授業ではこれを基にして「より深い文章の読みがよりよい表現を生み出すように、メディアを読むことと書くことは環をなしている」という部分の意味を考えていった。

各段落のコメントを書く時の約束は、必ず何かを書くということである。情報提示的な内容の段落の場合は「へえ。」「知らなかった。」などのコメントでもよいので、筆者と対話する気持ちで読むことを心がけさせた。

第2次では、第1次で出た疑問や感想をもとにした手引きを作成し、それを使って全体で内容を読み取って行くという学習活動を行った。内容の理解を深めると同時に、さらに自分の考えをふくらませるという活動になる。（資料3）

第3次では、内容の読み取りができているので、それぞれを簡単に要約し、どのような文章構成になっているかを考えさせた。これは、書き手の論理の展開の仕方をとらえて、今後、説明的な文章を読む場合の内容理解に役立てさせるためである。

また、筆者の内容の取り上げ方や、ことばの使い方などを検討することによって、（ここでは「五段階評価をすると？」という形式にした。）自分が表現をする時に気をつけるべきことを意識させた。

次にあげるのは、各段階の評価をつけた生徒のコメントから抜き出したものである。

【評価5】
・文章の順序がすごく上手だと思った。中学生向けの文章だからなのかわからないけど、始めの方は中学生がするようなことが書いてあって、興味を引きつけていたと思う。ちょっとした表現のしかたがうまい。

【評価4】
・身近なメディアを例にしていて、親近感のわく文章だと思った。また、説明文の中でも内容を理解しやすかった。けど、少しすべての物事を決めつけすぎだと思うので、③④段落などは「～なのではないだろうか」をもっと入れた方がいい。

【評価3】
・最初はいいと思ったけど、断片的に意味が変わったり、前置きが長い。その二カ所が今一歩なので、二段階引いた。
・⑩段落と⑪段落のつなぎ方が変。また、同じことを何回も繰り返している感じ。「結局はどうなの？」って聞きたくなる。

【評価2】
・「メディア」を広くとらえすぎて、実感がわかない。ＴＶや新聞などのマスメディアについてかかれた部分は納得できた。

第４次では、座談会形式で、メディア社会の生き方について、お互いの意見を話し合わせた。これによって、指導目標②をさらに深めていくねらいであったが、読み取りの過程で多くの生徒が意見を言っていたために、あらためて新しい話題にはならなかった。次にあげるのは、座談会から一部抜粋したものである。

Hさん	一番使っているメディアは何？
Iさん	テレビ！
Jさん	携帯電話！
Hさん	それについて、もっと、こう発達してほしいと思う機能はある？
Iさん	今のままで充分だよ。
Jさん	お金がかからないのがいいなあ～。
Hさん	じゃあ、でてきてほしい機械は？
Kさん	うー。教科書が電子辞書みたいになってくれたらいいなあ。一つで済むし。
Hさん	未来はどうなってるのかね？
Iさん	教科書とか、なくなっとると思う。ノートパソコンを一人一台持ってて、授業もパソコンでやっとると思うよ。
Jさん	黒板とか、鉛筆もなくなっとるね。
Kさん	全部通信教育になっとると思う。
Hさん	今とは違って人との触れあいがなくなって寂しくなるね。
Kさん	便利になりすぎても、いやじゃね。

四、おわりに

「説明的な文章の授業というのは、それを受ければ、読み方が身について、他の説明的な文章も読めるようになるはずだ。そうでなくては意味がない。」いつまでもひっかかるこの言葉だが、学年が上がるごとに、読むための技術を増やしていけば、それは実現できることである。そのためには「今回はこういう視点・力を身につけた」ということが明らかになっていなければならない。

第三学年の「メディア社会を生きる」の導入で、ここまでに学習した説明的な文章の教材と学習のポイントが何だったかを生徒に思い出させてみたのだが、私は正直、生徒がそれぞれの教材で何をポイントにおいて学習したかを結構覚えていたことに驚いた。そして、説明的な文章を読むために身につけるべき力を生徒自身が意識することにおいて、「指導目標をしぼった手引き」を使った学習が、少しは成果を上げていることが実感できた。

高等学校「国語総合」のねらいは、中学三年までに身につけたことをさらに深化させることで達成できる内容である。本校は、併設型中高一貫校ということもあり、その意識を生徒に持たせやすい。

ここまでの学習では、指導目標のいくつかを達成したに過ぎない。学習の手引きなしでも、自分の中に蓄積されている技術を使って、様々な説明的な文章を読める力をつけること、そして、それを今度は自分の表現に役立てることが今後の課題である。

（広島市立安佐北中・高等学校）

9

段落どうしのつながりキーワード

【本文】そこで、新しい種類のプラスチックが開発された。このプラスチックは、主に植物のでんぷんを発酵させたものを原料に作られている。そのため、わたしたちが肉を食べ、胃や腸で消化するように、微生物が食べ物として分解できるのである。これを生分解性プラスチックとよび、たい肥に埋めておけば微生物によって水と二酸化炭素に分解されてしまう。

※たい肥…草やふん尿、生ごみなどを積み重ね、自然に発酵・腐熟させて作った有機肥料。

【要旨】

・生分解性プラスチック…そのままな名前。
・微生物はプラスチックをどうやって分解するのか？
・石油から作るものが「プラスチック」なら、これはプラスチックとは言わないのではないか？
・植物から出来るの？すっげー。
・見たことがない。まだ売られてない？いつ作られたんだ？
・このプラは、値段が通常の2～3倍になっている。
・最初から生分解性プラスチックを作ればよかったのに。
・でんぷんを発酵させたものって…。
・普通のプラスチックと作り方はどのくらい違うのか？
・…ということは、二酸化炭素が増えてしまうかもしれない。

資料2

モアイは語る——地球の未来

二年（　）組（　）番
（　　）

◎根拠にスポットを当てて考えよう！

説得力があるか？

	ページ	筆者が推定したこと	根拠	強弱
①	P.131	・モアイを作ったのは（　　）である。	（　　）。	P
②		・最初にこの島に来たのは（　　）ごろである。	初期の遺跡から出土した炭化物の測定結果から。	f
③		・モアイの製造が始まったのは（　　）ごろである。	（　　）	
④	P.132	・人口は（　　）年ごとに（　　）ずつ増加し、（　　）世紀には（　　）から（　　）に達していた。	（　　）	
⑤		・大半のモアイは（　　）で作られた。	（　　）	
⑥		・モアイは（　　）であり（　　）だった。	（　　）	
⑦	P.133	・モアイを運ぶために使ったのは（　　）である。	（　　）	
⑧			（　　）	
⑨			（　　の減少）と（　　の増加）	
⑩	P.134	・イースター島は食料危機に直面した。	（　　）	
⑪	P.135	・イースター島の文明は崩壊した。	（　　）による（　　）	
⑫		・イースター島と同じ運命を地球もたどるかもしれない。	（　　）	

「メディア社会を生きる」

〜みんなの疑問や感想を手がかりにじっくり考えてみよう④〜

⑳
- つまりデジタル・デバイドですね。
- いわゆる情報格差ですね。
- メディアを使いこなせる人は、使いこなせない人をバカにしないでほしい。
- けんかになったことが、ある。
- メールの場合、普通に「。」で終わってたら「怒ってる？」とか思いますね。
- だからメールでは顔文字を使う？ギャル字は許せんけど。
- そう。前、テレビで「広島はめんどくさい」と言われて腹がたった。
- イメージを決めつける原因ってメディアなんだ。
- 新聞やラジオがなかったら、周りのことが分からない。
- 「媒体」ってどういう意味？

◎問題その１

①（　　　）

②（　　　）

◎問題その２

それはね…。

デジタルデバイド

情報格差

（　　　）か　か

（　　　）か　か

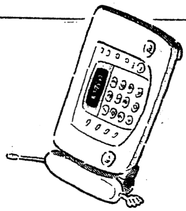
他にどのような原因がある？

（　　　）

たとえば…

㉑
- 影の部分？　たとえば？
- どういう意味？
- 「仲直りのメール」って許せん。あやまるならメールはない。
- そういうのがあるけえ、インターネットってこわいんよね！。

▼光の部分は



▼影の部分をなくすには

具体的には㉒段落に…

㉒
- 当たり前だと思っていたことが、急になくなる時もあるので、自分たちがどれだけ恵まれているか、あらためて考えた方がいい。
- あたりまえだと思っていることをよく見直すって難しいよね！。
- OK！任せて！
- これからはどんなメディア社会になるのかな？
- よくわかりません。言いたいことは分かったけど。

そしてさらに筆者の意見として

「これは筆者の主張に対して「納得できない」という意味かな？」

▼一応全部読んでみて

どうですか？この文章？

▼内容は？表現は？

う〜む。五段階評価でつけると☐ですね。その理由は…

資料3